

鶺鴒の木地区地域情報紙

さんぽみち

第60号

発行：地域力推進鶺鴒の木地区委員会
編集：鶺鴒の木地区 地域情報紙編集委員会
事務局：鶺鴒の木特別出張所 電話(3750)4241 FAX(3750)2418



あけまして
おめでとうございます

鶺鴒の木特別出張所管内の人口
男 10,797人
女 11,634人
計 22,431人
世帯数 11,821世帯
〈平成21年12月1日現在〉

出張所だより

秋の受賞者

◎平成21年度
秋季善行表彰受賞
【環境美化部門】
飯塚 耕太郎(鶺鴒の木西町会)
飯塚 セツ(鶺鴒の木西町会)

◎平成21年度
全民児童連会長表彰
永年勤続民生委員・
児童民生委員表彰
【永年勤続民生委員】
安齋 哲(鶺鴒の木三丁目町会)

おめでとうございます☆



冬の行事予定

鶺鴒の木三丁目町会
どんど焼き
日時：1月10日(日)午前10時
場所：多摩川河川敷

第六回鶺鴒の木地区高齢者
ふれあいフェスタ開催のお知らせ
日時：平成二十二年三月四日(木)
午後一時～四時
場所：大田区民プラザ

鶺鴒の木地区では、高齢者の
方々が明るく元気に暮らして
いただける地域社会を目指し、
毎月三つの元氣塾を開催して
います。
今年もその三つの元氣塾の
活動の結晶として、鶺鴒の木地
区高齢者ふれあいフェスタを
開催します。
今回は『来てみて会える
みんなの笑顔』というキャッ
チフレーズの下、みなさんに
素敵な時間をすごしていただ
こうと準備しています。
皆様のご来場を心よりお待
ちしております。
○プログラム
第一部 ステージ発表
・お楽しみ漫談

新年のごあいさつ

謹んで新春のお慶びを申し
上げます。
皆様には、日頃より町会連
合会の活動に温かいご支援と
ご協力をいただき、心から感
謝を申し上げます。
おかげさまで、昨年は、当
地区開催の大田区総合防災訓
練に五百六十一名のご参加を
いただき、また、オ・ア・シ・
ス運動が、都の「心の東京革
命推進モデル」に指定される
など、地域全体での取り組み
に大きな成果をあげることが
できました。また、高齢者ふ
れあいフェスタや連合運動会
も、例年以上のご参加をいた
だきました。

本年も、様々な地域活動に
取り組んでまいります。町
会活動の活性化には、一人
も多くの皆さまに町会へのご
加をいただくことが必要です。
安全・安心で住みよいまちづ
くりを進めるため、皆様のこ
理解とご支援をお願い申し上
げます。
最後に、新しい年が、皆様
にとりまして、幸多き一年と
なりまして、年頭のごあいさつ
とさせていただきます。

講師：アコーディオン漫談

多摩堤保育園児のお遊戯
第二部 ブースへ出展予定
もみじの会/鶺鴒の木ふれあ
い元氣塾/千鳥ふれあい元氣
塾/その他多数の企業が参加
予定です。
※新型インフルエンザのまん
延状況によつては中止になる
場合がございます。

鶺鴒の木特別出張所 改築等計画について

鶺鴒の木特別出張所は老朽化
のため平成22年秋より平成24
年春頃までの予定で現地改築
工事を行います。それに伴い、
当出張所は工事期間中、鶺鴒
の木1丁目6番へ仮移転するこ
とになります。管内にお住ま
いのみなさまには何かとご不
便等おかけしますが、何卒よ
ろしくお願いいたします。
今後の経過につきましては、
当情報紙および、ホームページ
で公開していきます。《今
までの経過につきましては、
ホームページ(http://www.city-
ota.tokyo.jp/chofu/ts_unoki/
shisetsu/kaichiku_unoki/in
dex.html)に掲載しております。》

地域の氏神様

鶺鴒の木八幡神社
御祭神

- ◎鎮座地(おまつりしてある住所)
大田区南久が原2-24-1
- ◎御祭神
菅田別尊(ほんだわけのみこと)
《応神天皇の大和名》
- ◎由来
延徳元年(一四八九年)天明
伊賀守光信の子、五郎右衛門
光虎が下野国(現在の栃木県)
より当地に移った際に一族の
守護神として八幡大神をおま
つりました。
寛文年間(一六六一～一七〇
六)七二年)青山印幡守が当社
を補修し、弘化4年(一八四
八年)天明五郎右衛門を始め、
天明孫七、天明九兵衛、天明
平左衛門、原田定右衛門、天
明宗右衛門、天明利佐衛門と
いう名主達が世話人となって
社殿を改築して天下泰平、村
内安全を祈願しました。その
後昭和20年の東京大空襲によ
り社殿は焼失、焼失せずに残っ
ている物は元禄14年(一七〇
一年)8月石灯笼一對が天明
家から奉納され、明治24年



編集後記

皆様、新春を迎え、おめでと
うございます。昨年7月に「さ
んぽみち編集委員会」は地域力
推進会議の内部組織として位置
づけられ、地域活動に密着した
情報紙「さんぽみち」として再
出発しました。
今回は①新春のごあいさつ
(佐藤会長) ②地域の氏神様 ③
俳句④まちと六郷用水 ⑤出張
所だより など、各委員《7町
会(各町会2名)計14名》が担
して取材に当たりました。
「さんぽみち」は、これから
も皆様と共に住みよいまちづく
りを目指し、より充実した編集
に努めてまいります。
本年もよろしくお願い申し上
げます。
編集長 永田 清



↑ 鶺鴒の木八幡神社

- ◎宮司
南久が原二丁目、一丁目の一部、
鶺鴒の木一丁目～三丁目の一部、
西嶺町の一部、千鳥町の一部
- ◎氏子責任総代(敬称略)
佐藤 大助 久保井 一夫
- ◎氏子総代(敬称略)
久保井 正雄 田沼 昭二
原田 忠好
- ◎年中行事
1月1日 元旦祭 11月15日 七五三祝
2月3日 節分祭 11月23日 新嘗祭
9月中旬 例大祭 12月28日 大祓式

御嶽神社

大田区北嶺町37-20

初詣、初宮参りや、七五三、季節のお祭りも私達を楽しませてくれる嶺の御嶽さんと呼ばれ親しまれています。信仰の山として有名な木曾御嶽神社の関東第一分社です。氏神は氏子区域(北嶺町、南久が原一丁目、鵜の木二、三丁目、千鳥一、二丁目)の住民を氏子として守護する神様です。神社を訪れて最初に出会うのが鳥居、その前に大きな社号標の石碑が目につきます。境内に入ると正面に権現造りの本殿、ご祭神は國常立尊(クニトコタチノミコト)他二柱。創祀、天文4年(一五三五年)頃の草創と言われています。本殿は天保2年(一八三一年)木曾御嶽修験者一行行者によって造営された。



↑ 御嶽神社

本殿手前に御嶽神社の「神使」山岳系の神社にしか見られない高さ1mほどの大変珍しいオオカミ(狼)の狛犬が左右に置かれ、右手には樹齢400年と言われる御神木の黒松「夫婦松」(区指定保存樹)が聳え左手には神社内にあるのが珍しい水行堂(行者や信者が身を清める行場)入口上部にある「竜の雌雄」は見事な彫刻です。(作者不明)一見の価値があります。



← 狛犬



← 水行堂



↓ 装飾彫刻

なんとと言っても御嶽神社の見所は本殿の外壁周囲に施されている「藤原篤意」の作と言われる和漢の故事や物語に因んだ絵柄が精巧に刻まれ浮き彫りされた装飾彫刻(大田区文化財指定)です。私たちが地域の人々の暮らしを、お守り下さる身近な氏神様です。散歩がてら気楽に境内を散策し、新しい鎮守の杜で小さな発見があるでしょう。

鎮守の杜の創出

御嶽神社 宮司 松本淳

昨年(平成二十一年)、御嶽神社は大規模な境内整備を実施いたしました。一番の目玉は本殿の背面の「鎮守の杜」の完成です。横浜国立大学名誉教授・宮脇昭先生の指導のもと、大田区長さんを始め三五〇名が参加し、五月に「植樹祭」を開催したのです。その土地本来の樹種を選んで植える「宮脇方式」により、通常よりも速いペースで本物の杜ができあがります。そしてその杜の中に、元々神社にあった約三〇基の霊神碑を移設し、言わば「霊神の杜」という新たな聖地が出現しました。



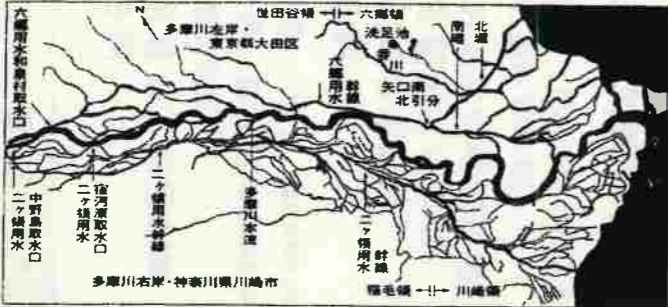
↑ 鎮守の杜

また、排水処理、電線の地中化等、機能面においても様々な手当を施し、年中行事がやり易いように工夫しました。今後も、清々しい気持ちで参拝出来る空間を創出するべく、努力を続けたいと思います。

ご存知ですか?

『まちと六郷用水の歴史』

六郷用水とは狛江市で多摩川から水を取り、羽田・大森の海岸まで人の力で水路を作り、水源である狛江市元和泉2-32(水神前バス停)で取水。世田谷区内は丸子川(次太夫堀)、六郷領は35ヶ村(明治期30ヶ村)が用水の利用組合を作り維持管理にありました。←六郷用水の全貌



の右岸に二ヶ領用水(川崎・稲城)が一年遅れて着工された。左岸の世田谷六郷の四つを合せて四ヶ領用水ともいわれます。用水路の目的は、荒地だった多摩川河口地域を水田にするため、農業用水が必要だったからです。徳川家康が江戸に来て、家臣

の小泉次太夫が7年後の一五九七年に計画、工事を始め、14年かけて完成しました。その技術はすべて人力に頼り、特に女堀【おなぼり】(嶺町22・観蔵院前)は難工事でした。←六郷用水を掘削した代官小泉次太夫像(狛江市川崎区妙蓮寺境内)



← 六郷用水を掘削した代官小泉次太夫像

土地利が変化したのは、昭和に入ってからで、明治・大正期は農業用水として使用し、震災の後に都市化が進み、用水管理も水利組合から大森・蒲田地区に移管され、用水路は排水路へと変わりました。



↑ 昭和45年埋められた六郷用水(鵜の木下丸子)

昭和45年頃の六郷用水

しかし、排水路になるとたまつたごみから悪臭が出る、蚊が発生、大雨の時浸水する等の問題が発生したため下水道として暗渠化し、六郷用水は姿を消しました。一九七九年大田区は区民からの陳情を受け、旧六郷用水の中原街道下から東光院まで復元水路を作る工事を始めました。一八八十年代になり、行政側でも水辺の環境を憩いの場として復

活する動きが出てきました。現在の六郷用水は浅間神社の崖下に、多摩川を望む台地に流れ、川と用水の水位の差を実感します。

六郷用水公園は沼部のトンネルを出て観蔵院まで続いています。水源はせせらぎ公園・用水内の堰は、三菱山の水源を分水し、緑のダムの役目をしていいます。復元事業に対して公園の入口に「手作り郷土賞」を獲得の説明があります。

水辺の生物は鯉、その他の魚、カメ、カワニナ等、植物は四季の花々や樹齢四百年のスタジイもあり、区民の憩いの場となりました。用水路の昔も所々に農具のジャバラ(水車)や、洗い場も残されています。密蔵院前の用水路にはカワニナ、シジミ等がいます。30年ほど前にはホタルも用水路に飛んでいたとか：泥底には穴が開いています。水があるとその色々な生き物が生れ、集まります。

六郷用水路の西嶺町の観蔵院裏の上り勾配、この付近が女堀と呼ばれ、かつては谷底を用水が流れていました。この用水の難工事だったのは、下沼部浅間神社崖下と、嶺から鵜の木に入る光明寺裏の割堀でした。土地は堅く掘り進めず、また人手も足りなかつたので、女もまじり、手伝いました。鵜の木はその昔、六郷用水

御嶽神社の例大祭は毎年、九月第二か第三の土、日曜日です。本年の一月、二月の祭事は、歳旦祭 新年初詣 節分祭 二月三日

御嶽神社担当、木村希代子、井原伸夫、佐瀬光男、渡辺靖彦、佐々木すず子、大関則子、田中克美、児玉夷功子、政氏、禮子、青木幸子

俳句

鐘の音に急かされ 吾子と初詣 妻がまず母に注ぎたる 年の酒 元朝は格差抜がる ニュースから 忘れたきことの忘れて 雑煮膳 初夢やあの世この世を 行き戻り ゆたんぼと猫を抱きて ゆめのなか くしやみせる 赤子のおでこ 寄すおでこ

鵜の木三丁目町会 館野邦榮

(慶長14年一六〇九年)完了により土地も豊かな農村でした。この北から南に流れる用水に並行して府道があり、今も残るこの道に巨木が万年堀から何本も手を出し、この巨木たちは用水の流れに堂々と枝をのびしていったでしょう。



← 六郷用水に胸を伸ばした巨木たち

千鳥3-13の南北引き分けは取水口から約20km(全長は30km)を流れた六郷用水は、矢口村の南北引き分けを境に池上・新井宿方面の北堀と、蒲田・六郷方面への南堀とに分流されていきました。水利権上最も重要な場所となり、ここを中心に水争いが絶えなかつたようです。また、底を平らに保つようその管理には、細心の注意が必要でした。

担当、大森 律子、岡田 八重子、加茂 瑠美子